

# 音楽のおもち箱Ⅳ

兼：同窓会②

2024年3月10日(日)

pm.1:00開場 1:30開演

芝園教育研究所 (旧芝園小学校)

3F体育館(JR蕨駅西口徒歩8分)

♡無料♡



ぞうコンサートで  
大好評!



ゲスト：**ちんどんバンド☆ざくろ**のみなさん

☆☆お友達もぜひぜひ誘ってネ☆☆

体育館⇒「要：上履き」  
外の気温にあわせた服装  
終演：3時くらい (予定)

今のところのご予定人数を  
ざっくり、お知らせいただ  
けると助かりますm(\_)\_m  
(メールでもなんでも)



♡催し物のご案内♡

♪「ぞう」の清水さん (作詞) と藤村さん (作曲) のミュージカルが4月に王子駅そばの「北とぴあ」で上演されます(別紙をみてね)。

♪『新春荒馬まつりINさいたま』

2024年1月14日(日)

14:30~15:45 (開場：14:00)

さいたま市文化センター小ホール  
JR「南浦和」駅西口徒歩7分

一般3,000円/割引2,000円  
(3歳~中学生・障がい者)

※3歳未満膝上無料

(席が必要な場合は有料)

※全席指定 ※当日券500円増

連絡先

arauma@araumaza.co.jp

荒馬座 03-3962-5942

新年のご挨拶を、と思っていたのに、年明け早々、次から次へと思ってもよらない災害や事故が起きてしまいました。特に能登は半島の為、使える陸路も限られており、支援物資もなかなか届きません。そんな中で、被災された方々も、そして縁者の方々の安否を気遣いながら、遠くから祈るしかない方々も、本当に不安な毎日を送られている事と思います。能登では、先の震災からやっと立ち直り、さあ、これからという時にまた、追い打ちをかけられてしまいました。被災地の石川も富山も新潟も、この先、雪がますます深くなる事でしょう。亡くなられた方へのご冥福をお祈りするとともに、穏やかな時間が少しでも早く訪れます様にと願わずにはられません。

また、繰り返し報道される映像に、かの大震災の記憶がよみがえり、落ち着いた気持ちの方はおられませんか？ そんな時は「深呼吸」とよく言われますが、合唱団員だもの、こんな時こそ歌を。「ぞう」ならさて、どの歌？

今回もまた、何もかもに「当たり前」はないのだと学びつつあります。世界の戦争も含め、確かに厳しいニュースの年明けとなりましたが、それでも、これから新しい挑戦を始める方たちへは盛大なエールを!!

あのパンドラの「箱」、最後に残っていたのが「希望」ですものね。それを忘れないでいたいな・・・

《連絡先》

<http://kawaguchizou.sakura.ne.jp>

「川口ぞうれっしゃ」で検索「問合せ」欄

Email : kawaguchizou21@s8.dion.ne.jp

電話・FAX 048-268-9256(荒木)

今年も  
よろしく  
です!

12月1日(金)

お酒もお菓子も我慢して

由布院小学校

「象列車集会」に行きました。

なんと、藤村さんも駆けつけて

由布院小の皆さんにメッセージを  
伝えて下さいました。

その日は冷たい雨が降りましたが  
会場の体育館は熱い想いで  
満たされました。

「象列車集会」の復活です!

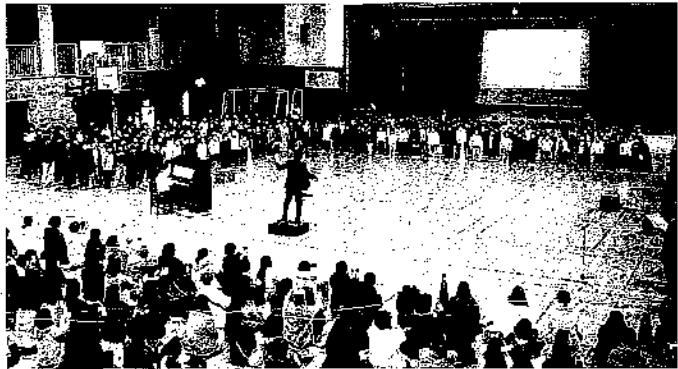
# 由布院小学校

大分を訪ねて

12月1日、大分県由布市は雪も湿る寒さだった。以前から埼玉・川口でうれっしや合唱団の荒木紀理子さんから伺っていた由布院小学校の「全校ぞうれっしや集会」に参加した。川口からも荒木さん以外3人が参加された。

コロナ禍を越え4年ぶり

戦後の日本に、子どもたちのピースメッセージを乗せた象列車が走って今年75年。そのドラマを描いた合唱構成「ぞうれっしやがやっってきた」(清水則雄作詞、藤村記一郎作曲、1986年初演。以来、全国、海外でも演奏)。大分県の由布院小学校では35年、全曲演奏の「ぞうれっしや集会」が開かれている。昨年12月の全校集会を訪れた作曲の藤村記一郎さんより。



▲子どもたち、保護者が口の字に囲んで演奏

のリアル開催(映像での集いは続けていた)、全校児童370人の子どもたちと全職員、そして35年前の開始とともにできた地域の「コールあさきり」の方々、100人ほどの保護者も参加の中、子どもたちの司会で集会は始まった。

各学年、そして全員  
旺巻の全校合唱  
古長史哉(こちようふみや)校長先生は最初に「35年間も全校で全曲を歌い続けている学校は日本中どこにでもありますよ!」と、私たちが集会前にお伝えしたことを紹介された。私も最初の挨拶で「自己紹介の「すうがく大好き」の歌に続いて、その素晴らしいさを伝えた。寒い体育館に、全校生徒と、先生や大人のコーラスの方も「コ」の字に座り、保護者が加わると全体が口の字に。舞台上グラ

## 教職員の合意、保護者、音楽家

## 学校と地域の共同作業

(6年)、「本物のぞうが見たい(3年)」「ぞうをかしこんださい(4年)」、その後、全校児童と大人たちが合同で「ぞうれっしやよはしれ」「平和とぞうと子どもたち」を歌い上げる、旺巻だ。



▲指揮者楠本先生

護者として参加された地域の音楽家のみなさんの支えの共同作業だと感じる。ぞうれっしや集会のあと学校隣の図書館でこの原稿を書いていると、歌い終わったばかりの4年生の子どもたちが数人、宿題をしなから、「冬の街に雨がふる...」(空地はすべてたがやされく...)、など延々と歌いながら宿題をしている。自分の学年の分担当した歌だけでなく、すべての歌をどんと歌い続ける!それもとても美しい声だ。

町中で「ぞうれっしや」が歌えるかもしれない。終了後、保護者の方から「この学校の卒業です。私が6年生の時に始まったんです。35年間の卒業生が全員「ぞうれっしや」が歌える!そんな卒業生が増えれば町中で歌えますね」と答える。集会での私からの要望に応え、「来年(今年)は歌って参加したい」と笑顔で話された。私も、この集会は毎年12月の初め、日本のうたごえ祭典in佐賀で「全国ぞうれっしや合同合唱」(11月30日、大分県)のあと、伺いたいとお伝えした。



▲教職員のみなさん

演奏後、校長先生は「由布院小学校のぞうれっしや集会、復活です。みんなの思いが世界に届くように、思いをつなげるように気持ちを込めて歌ってくれたと思います」と締めくくられた。私も「来年はぜひ、保護者の方も一緒に歌いませんか!そうすれば、毎日、家の中で大合唱!楽しいくなりますよ!」と最後に挨拶させてもらった。鼻歌で「ぞう...」を歌う子どもたち  
35年間続くのは、教職員がこの取り組みに対する合意形成の力と、音楽専科の教員がいない中、初めは保

by  
しばゆ  
しばね  
うしゆ  
あのじ

うたごえ新聞  
No.2519号  
藤村氏の記者  
その模様を  
お伝えします。